児童に見られるつまずき

　拡大図や縮図を正しく選んだり作図したりすることができない

つまずき解消に向けた指導のポイント

　拡大図や縮図を作図し、どのように作図したのかを説明し合う活動を通して、辺の比や角の大きさに着目して拡大図や縮図を正しく選んだり作図したりできるようにする

指導事例集ｐ．７３

１　学年・単元名　　第６学年　拡大図と縮図（図形領域）

２　単元目標

拡大図や縮図の観察やかくことを通して、拡大図、縮図の意味や性質について理解し、図形の理解を深め、図形に対する感覚を豊かにする。

３　単元の内容

　・拡大図、縮図の意味と性質

　・拡大図、縮図のかき方

　・縮図の利用

４　本時の目標

方眼ではなく道具を用いてかいた拡大図や縮図について友達と交流することで、自分が知っている拡大図や縮図の定義が作図に活用されていることを実感できるようにする。

ワークシート使用

５　本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 学習活動 | 指導上の留意点**太字：つまずきに対する手立て** |
| 導入　　　　　　　　　　展開　　　　　　　　　　　　　まとめ　　　　　　　　　　　　　　　 | １　定義をもとに、二つの図形が縮図の関係であることを説明する。　　・対応する辺の比がどこも４：３で等しいです。・また、対応する角が等しいので、縮図であると言えます。２　方眼紙ではない白紙に、道具を用いて拡大図、縮図をかき、作図方法を説明する。友達に作図方法を説明しよう。　　・対応する辺の比を同じにするために、定規を用いました。・分度器を使って、対応する角を同じにして、縮図を作図しました。参考：授業の様子３　本時のまとめ，振り返りをする。　・振り返りカードに、わかったこと、疑問に思うことを書く。 | ・縮図の関係にある二つの図形を提示し、縮図かどうかを判断させる。・**拡大図や縮図の定義を確認することで、縮図の説明をする手立てとする。**・**辺の比や、角の大きさを書き込むようにする。**・白紙で作図することで、分度器や定規などの道具を使って、縮図の定義を確認しながら、活動することができるようにする。・**用いた道具を説明することで、辺の比や角の大きさなど、どの定義に着目したのかを意識できるようにする。**・マス目を利用しなくても、分度器を用いれば縮図が作れることに気づく。・方眼でも、対応する角の大きさが等しいかを確かめることをおさえる。・振り返りカードを配布する。 |